

第8回総合大会指定課題・解説

月刊書字文化 5月号で発表した全国硬筆コンクール課題から
小1～小4、高校以上が変更されていますので、ご注意ください。

課題・応募数



総合大会は「ひらがな・かきかたコンクール」「全国学生書写書道展」「全国硬筆コンクール」とも課題は指定されます。学生展には席書と公募の部がありますが、両部とも共通の指定課題です。

応募数は1人1点ですが、学生展公募の部では、同じ課題でも用紙の大きさ（半紙、八ツ切、半切、地域指定用紙）が違えば1人3点まで応募できます。地域指定用紙とは、都道府県の大会などで独自に使用が求められている八ツ切のことです。この地域指定用紙での八ツ切出品も可能です。硬筆コンクールでは書体が違えば中学生は2点、高校生以上は3点応募できます。（その他実施要項ご参照）

<仮名遣い>

句読点は原文通りでない場合があります。詩歌、漢文以外でも句読点を省く場合があります。

ひらがな難易度表、評価の観点表を大事に

今回は特に語句的な共通テーマは設けませんが、留意したいこととして「ひらがな難易度表」、「評価の観点表」に注目することを大事な目的にしました。書文協は来年2月22日、創立10周年を迎えますが、この2つの表は、書文協が考案した自慢のものです。

ひらがなは、漢字の草書体を字源として日本が生み出した文字で、漢字かな交じりの日本語の6割以上を占めている、と言われます。その書き方の難しさはそれぞれに違います。ひらがなを順次覚えていくチャートとして作られたのが「ひらがな難易度表」です。

「評価の観点表」は、止め・はね・払いなど、覚えて欲しい書写書道のルールを50の項目にまとめたものです。検定やコンクールで出されてきた作品を、この評価の観点に照らして審査します。この指定課題の評価の観点はどこか、は公開されます。ともすれば書写書道作品の審査過程は明らかにされないブラックボックスとされてき

ました。単に「上手い、下手」の漠然とした評価でなく、評価されたポイントを知ることで書写書道は学びの道筋を得ます。

課題の言葉をきっかけに、教室で先生と生徒さんの間で語り合われることを期待します。この解説は主に指導者を対象に書かれています。課題の解説は一覧の末尾に記しました。参考にしてください。

用紙・表記上の注意

- (イ) 硬筆は書文協製作の「硬筆共通清書用紙」（検定、大会共通）で出品してください。共通清書用紙は学年ごとに①（5字1行、年長以下）、②（6字3行、小1・2）、③（7字5行、小3・4）、④（罫線5行、小5・6）、⑤（罫線6行、中学）⑥（白地、高校以上）の6種類があります。1枚13円（100枚以上注文は1枚10円計算）。書文協本部にお求めください。
- (ロ) 漢字は学習指導要領の学年別漢字配当に従っています。ただ、総合大会は年度前半大会であることから前学年までの漢字使用を原則とします。ごく一部、当該学年配当の漢字が使われています。
- (ハ) 漢字・仮名遣い、句読点は原文通りでない場合があります。詩歌、漢文以外でも句読点を省く場合があります。

参考手本、評価の観点はホームページで発表

ひらがな・かきかたコンクールの手本はすでにホームページで発表されています。他の2コンクールも5月末には発表の予定です。評価の観点もホームページ上で発表されます。

手本通りに書かなくてはいけないということではありません。流派を超えた審査が書文協の理念です。止め、はね、払いや点画など、身に付けなくてはいけないルール、技術をしっかりと手本から読み取ってください。指定された大きさの用紙に書く際の文字の配置、配列も手本を参考にしてください。技法、ルールのポイントを指定課題文言にそってまとめた「評価の観点」も参考にしてください。

書文協ホームページに掲載された手本をダウンロードして使用するの自由です。手本は発売もされます。

参考手本（毛筆はA3判、硬筆は共通清書用紙による原寸大）は希望者に発売します。手本は1枚当たり毛筆100円、硬筆は40円。幼稚園・保育園・学校単位での応募は、応募者1人手本と清書用紙2枚を無料とします。送料はご負担ください。



展示作品化奨励に表装（毛筆） 記念アルバム（硬筆）製作発売

書文協では書写書道作品の作品（展示）化を奨励しています。毛筆でも硬筆でも、人に鑑賞してもらうことが書の楽しみの一つとなります。また、展示作品にして残すことは、書の学びの軌跡となり、継続する力の原動力となるでしょう。

応募作品は基本的に書文協に帰属しますが、記念アルバム（本人の作品、写真、賞状のレプリカを配した特製）はアルバム立て台を付け、希望者に発売されます。表装、アルバムについての詳細は、結果発表時に同封されますが、書文協本部にお気軽にお問い合わせください。

— 課題 —

句読点や改行は、実際のお手本を参考にしてください。

【令和元年度全国ひらがな・かきかたコンクール】

学年指定の硬筆共通清書用紙に鉛筆で書きます

学年	用紙	課題
年少・年中	硬筆共通清書用紙①	くり
年長	同①	ことり
小1	同②	ひろいそら
小2	同②	あおいうみとしろいくも。
小3	同③	のはらをあるく。かぜがふいている。

【令和元年度全国学生書写書道展】

いずれも毛筆による縦書きです。公募、席書の部共通です。

学年	用紙	課題
年少年中	八ツ切	こ
年長	八ツ切	つり
小1	八ツ切	なみき

小2	八ツ切	そよかぜ
小3	八ツ切	雪のうえ
小4	八ツ切	海へ行く
小5	八ツ切	光る大地
小6	八ツ切	心に太陽
中1	八ツ切	宇宙旅行
中2	八ツ切	生命の尊重
中3	八ツ切	雲海の眺望
高校		
漢字	半切	春眠不覚暁
仮名	半切	荒海や 佐渡に横たふ 天の河
大学		
漢字	半切	春宵一刻直千金 花有清香月有陰
仮名	半切	あかねさす 紫草野行き 標野行き 野守は見ずや 君が袖振る

【令和元年度全国硬筆コンクール】

学年指定の硬筆共通清書用紙に書きます

学年	用紙	課題
年少年中	硬筆共通清書用紙①	さくら
年長	同①	あじさい
小1	同②	おかあさんのむねは なんかあったかい
小2	同②	青空に ゆびで字をかく あきのくれ
小3	同③	石走る たるみの上の さわらびの もえ出づる春に なりにけるかも
小4	同③	楽しいことは、心の中に全部ためて、大切にします。
小5	同④	いつかひとりで旅に出る 少し大きくなるために もっと自分を知るために そして必ず帰るのは心の古里 私の家族

- 小6 同④ 「道」のつくものいくつある。書写書道に武道に茶道、どれも歩けば長い道。心と足どり確かめつつ、旅立とう、精神の高みへ。
- 中学生 同⑤ (楷書・行書のどちらかで。楷・行計2点まで可)
月日は百代の過客にして、行き交ふ年もまた旅人なり。
船の上に生涯を浮かべ、馬の口とらへて老を迎ふる者は、日々旅にして旅をすみかとする。
おくの細道より
- 高校以上 同⑥ (楷書・行書・草書のどれかで。楷・行・草計3点まで可)
国境の長いトンネルを抜けると雪国であった
川端 康成 雪国より
○○かく

— 課題解説 —

ひらがな難易度表

ひらがな難易度順一覧

レベル										
A	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	こ	り	つ	し	く	へ	い	と	て	ろ
B	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
	う	そ	に	ち	ら	の	さ	け	た	せ
	21	22	23	24	25	26				
	よ	や	ん	ひ	お	え				
C	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36
	す	る	か	き	み	は	も	ま	ふ	ゆ
	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46
	め	わ	ほ	れ	ね	な	を	ぬ	あ	む

ひらがなを順序良く学ぼう

ひらがなは漢字を音だけで使った万葉仮名からできました。対象の漢字を極端に草書化したもので、日本で生まれた文字・ひらがなの字源は草書体の漢字なのです。

現代では46文字が使われています。これらについて、書き易さをいくつかの点から数値化して順に並べたものが「ひらがな難易度表」です。主なポイントは①何筆で書くか②折れ、折り返し、曲り、そり、接し方、交わり方などがどの程度入っているか③書く人の感覚、などです。これらを数値化して順位を付けました。

この結果、一番易しいのは「こ」、最も易しくないのは「む」となります。筆数は2筆でも、幼児がジグザグの線の練習から直ぐかけてしまうのが「こ」、難しい曲りや交わりのある「む」はまことに書き難いわけなのです。難易度表に従って学んでいくことが大切です。

評価の観点表

10級 (はじめてのえんぴつNo.1~4)																														認定級位																														
9級 (はじめてのえんぴつNo.5~6)																																																												
8級 (はじめてのえんぴつNo.7~10)																																																												
7級 (えんぴつ・ペン文字練習帳 1 課題No.1~8)																																																												
6級 (えんぴつ・ペン文字練習帳 2 課題No.9~16)																																																												
5級 (えんぴつ・ペン文字練習帳 3 課題No.17~24)																																																												
4級 (えんぴつ・ペン文字練習帳 4 課題No.25~32)																																																												
3級 (えんぴつ・ペン文字練習帳 5 課題No.33~40)																																																												
2級 (えんぴつ・ペン文字練習帳 6 課題No.41~44)																																																												
1級 (えんぴつ・ペン文字練習帳 6 課題No.45~48)																																																												
30	29	28	27	26	25	24	23	22	21	20	19	18	17	16	15	14	13	12	11	10	9	8	7	6	5	4	3	2	1	評価の観点 (番号と内容)																														
3つの部分の組み立て方			配置・配列		点画のつながり		用紙と文字の大きさ		書く速さ		筆順と字形		漢字と仮名の大きさ		筆圧		組み立て方		句読点・かぎ		画と画の間・等間隔など		中心		外形		濁点・半濁点及び拗音・促音の小さな文字		そり		点		縦画・縦線		横画・横線		筆順		交わり方		接し方		曲がり		折り返し		折れ		あき・広い・狭いなど		方向		長さ		はねる		払う		止める	
一般社団法人日本書字文化協会																														合格 チェック																														
課題合格 (印)																																																												

書写書道硬筆課題検定(新硬筆検定)

年 月 課題 番

確かな学びを続けるために

上記の「評価の観点」表は、書写書道を学ぶ上で覚えておきたい基本的なルールを50項目にまとめたものです。掲載した表は前半の30項目です。ルールには、止め・

はね・はらい、長さ、方向、あき、配置・配列などがあります。作品の審査は、これらの観点に沿って行われているのですが、審査過程は公開されないのが普通で、書写書道の審査は「ブラックボックス」（暗室）の中と言われがちです。評価の観点は、この暗室の中が可視化できるように書文協が決めたものです。

コンクールでは、その課題文のどこに注意して書けばよいか、逆に言えば、どこが審査のポイントなのか、評価の観点が書文協ホームページで公表されます。検定では、評価の観点表にチェックを入れて審査結果がワンポイント添削された検定受験作品とともに返却されます。評価の観点が一定水準に達してないと、検定は不合格となります。確かな足取りで学び続けるために「評価の観点」は不可欠です。

— 課題出典等解説 —

<学生書写書道展>

◇高校・漢字

春眠不覚暁

中国の詩人、孟浩然が詠んだ漢詩「春暁」（五言絶句）の起承転結の起句です。書き下し文は、春眠暁を覚えず（しゅんみんあかつきをおぼえず）。春の眠りは心地がよく、夜が明けるのも気づかないほど、という意味です。春暁の全文は以下の通り。とても有名な漢詩です。暗唱しましょう。

（左から右に読む）

春 眠 不 覚 暁	春眠暁を覚えず
処 処 聞 啼 鳥	处处啼鳥を聞く（しよしよていちょうをきく）
夜 来 風 雨 声	夜来風雨の声
花 落 知 多 少	花落つること知る多少



◇高校・仮名

荒海や 佐渡に横たふ 天の河

芭蕉の「おくの細道」に収録されている俳句です。新潟県の出雲崎（いずもざき）で詠まれました。季語は天の河（秋）。「荒れ狂う日本海の向こうには佐渡ヶ島がある。空には、白く美しい天の川が、佐渡の方までのびて横たわっている」という雄大な景色の句です。



しかし、この句は単に写生句ではなく、流人の島、佐渡ヶ島を目の前にした旅愁を詠んだものと言われていています。「おくの細道」は、1689年春に江戸を立ち、奥羽、北陸の各地を巡り岐阜県の大垣に着くまでの150日間2600キロに及ぶ旅の記録です。

◇大学・漢字

春宵一刻直千金 花有清香月有陰

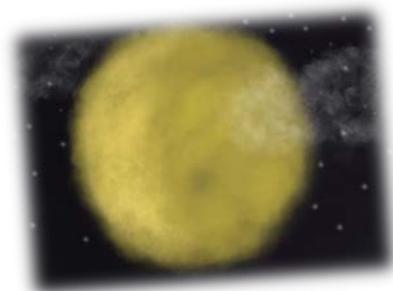
中国宋代の詩人・蘇軾の作「春宵」（七言絶句）の起句、承句です。書き下しは、春宵（しゅんしょう）一刻（いっこく）直（あた）い 千金（せんきん） 花に清香（せいこう）有り 月に陰有り

意味は、春の夜のすばらしさは、ひとときが千金にもあたえるほど貴重なものだ。花には清らかな香がただよい、月はおぼろにかすんでいる。

漢詩全文は

春宵一刻直千金 花有清香月有陰 歌管楼台声细细 鞦韆院落夜沈沈
転・結句の書き下しは 歌管（かかん）楼台（ろうだい）声细细（さいさい）
鞦韆（しゅうせん）院落（いんらく）夜沈沈（ちんちん）

値千金は漢詩から生まれた故事成語・格言として有名です。



◇大学・仮名

あかねさす 紫草野行き 標野行き

野守は見ずや 君が袖振る

あかねさす むらさきのゆき しめのゆき
のもりはみずや きみがそでふる

「令和」の出典で注目を集めている万葉集に収められています。作者は女流万葉歌人として名高い飛鳥時代の額田王（ぬかだのおおきみ）。元の夫、大海人皇子に充てた恋の和歌です。

紫草の生えた野を行き、標野を行きながら（標野の）見張りが見やしないか、いや、見てしまうでしょう。あなたが（あっちへ行きこっちへ行きながら私に）袖を振るのを。

この歌に大海人皇子はこう返したと言われます

紫草の にはへる妹を 憎くあらば 人妻ゆゑに我恋ひめやも

大海人皇子はのちの天武天皇。額田王の恋人として、大海人皇子のお兄さんで大化の改新で有名な中大兄皇子（後の天智天皇）も登場する華麗な万葉の恋歌です。

<全国硬筆コンクール>

◇小 2

青空に ゆびで字をかく あきのくれ

これは、江戸時代後期に活躍した俳人、小林一茶の句です。学校教育で俳句が登場するのは3年生過ぎからで、少し早いのですが子供たちが日本の伝統文化の一つ、俳句にできるだけ早く関心を持って欲しいと思います。

この句は情景だけでなく、ゆびで字を書く、という所作も低学年でもわかりやすいでしょう。それに、この句を真似て、空を紙に見立てて字を書く“シャドウ書道”を実行してもらいたい、とも思います

一茶は、芭蕉、蕪村と並び江戸時代を代表する俳人。雀の子 そこのけそこのけ お馬が通る やせ蛙 負けるな一茶 ここにあり など、ユーモラスな句で知られます。

◇小 3

石走る たるみの上の さわらびの
もえ出づる春に なりにけるかも

小学校中学年以降になると、易しい古文調の俳句や短歌を学ぶことが求められます。この和歌も万葉集に収められています。

「石走（いわばし）る垂水（たるみ）の上のさわらびの萌（も）え出（い）づる春になりにけるかも」

志貴皇子（しきのみこ）の作。学年配当を超えて漢字で記すと、意味がよく分かります。岩の上を激しく流れる滝のほたりでは、さわらびが芽を出す春になったことだなぁ、というのが現代語訳。さわらびは、芽が出たばかりのわらび。

◇中学生

月日は百代の過客にして、行き交ふ年もまた旅人なり。船の上に生涯を
浮かべ、馬の口とらへて老を迎ふる者は、日々旅にして旅をすみかとする。
おくの細道より

全国学生書写書道展の高校・仮名の部にもある松尾芭蕉の「おくの細道」の冒頭部分です。

月日は永遠の旅人(百代の過客)であり、去り、やって来る年も旅人のようなものだ。船頭や馬子(馬借)などは毎日が旅だ。

こんな意味ですね。古人も多く旅に死せるあり。と続いていきます。おくの細道については、学生展の課題解説を参照してください。

◇高校以上

国境の長いトンネルを抜けると雪国であった
川端 康成 雪国より

(名前は作品の一部として書きます。)

ノーベル文学賞作家、川端康成の雪国の冒頭です。これを、お手本では無地の用紙に楷書、行書、草書で書きます。得意な書体で書いて応募しますが、楷・行・草の3通りでも応募できます。お手本通りに書く必要はありません。

この短い文から何をイメージするかも意識してみましよう。

